

矢板中央高等学校
令和 7 年度入学試験問題

国語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、9 時 00 分から 9 時 50 分までの 50 分間です。
- 3 大きな問題は全部で 5 問で、表紙を除いて 9 ページです。
また、別に解答用紙が 1 枚（両面）あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受験番号をこの表紙に、
受験番号と氏名を解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。
また、特に指示のあるもののほかは、各問いの **ア**、**イ**、**ウ**、**エ** のうちから
最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の()の中に書
き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号
も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 験 番 号				番
---------	--	--	--	---

1

次の1、2の問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 洗練された文章。 (2) 屈折した感情。
- (3) 障害を克服する。 (4) 時間が惜しい。
- (5) 刀を研ぐ。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) ショウダンがまとまる。 (2) 温室サイバイの野菜。
- (3) もう少しのシンボウだ。 (4) 布団をホす。
- (5) 核心にセマる。

2

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

かつて私たちは、人間たちの時代経過のなかに、ひとつの歴史が貫かれていると教わった。しかしいま考えてみると、この歴史観は「中央」あるいは「中心」の成立によって誕生したのではないかと思われる。

たとえば、『古事記』、『日本書紀』は、古代王朝という「中央」が成立することによって書かれた歴史である。そしてこの「中央」にとつては、『古事記』、『日本書紀』は、「正史」として機能する。

「中央」の成立は、「中央」の「正史」を、すなわち「中央」が物語った歴史を成立させた。それは古代王朝の時代に限ったことではなく、どの時代にも成立する。いわばそれは「正史」としての「私史」である。問題はこの「私史」がいつ「日本史」に変わったのかである。それは「中央」の「私史」が「国民の歴史」に変わったことを意味する。

「日本史」、あるいは「フランス史」とか「アメリカ史」のようなものであっても同じことなのだけれど、「国民の歴史」の成立は国民国家の形成と一对のものであった。「中央」史が国民の歴史に転ずるため

には、歴史を共有した国民という擬制の誕生が必要であり、その国民が「中央」と結ばれた存在になることによって、中央史が国史、あるいは国民の歴史として機能するようになったのである。

そのとき多様に展開していた歴史は、統合史、統一史へと統合された。歴史はひとつのものになり、国民にとっての客観的事実とみなされるようになった。

そのとき歴史学は、客観的事実の中味をめぐって争った。「本当の歴史」を、それぞれの視点から書くこととした。□□、統合された歴史が誕生したという、そのことの意味を問おうとはしなかった。

国民国家、すなわち人間を国民として一元的に統合していく国家は、国民の言語、国民の歴史、国民の文化、国民のスポーツといったさまざまなものを必要とした。求められたのは国民としての共有された世界である。そのひとつが国民の歴史であり、私たちにとつては日本史である。そして、だからこそその歴史は人間の歴史として書かれた。

かつてさまざまに展開していた「村の歴史」はそのような歴史ではなかった。それは自然と人間が交錯するなかに展開する歴史であり、生者と死者が相互性をもって展開していく歴史であった。なぜなら「村」とは生きている人間の社会のことではなく、伝統的には、自然と人間の世界のことであり、生の空間と死の空間が重なり合うなかに展開する世界のことだからである。

ところで「中央の歴史」としての「国民の歴史」が書かれるようになると、その「歴史」には共通するひとつの性格が付与された。現在を過去の発展したかたちで描く、という性格である。

「中央の歴史」と「国民の歴史」をダブらせて共有させるためには、歴史は多少の問題はあっても、基本的には良い方向に動いているという、もうひとつの擬制を成立させる必要があった。過去よりは現在の方がマシだという感覚の共有があつてこそ、「中央の歴史」、「国

民の歴史」は肯定的な合理性を与えられるからである。

それは簡単な方法で達成される。現在の価値基準で過去を描けばよいのである。たとえば現在の社会には経済力、経済の発展という価値基準がある。この基準にしたがって過去を描けば、過去は経済力が低位な社会であり、停滞した社会としてとらえられる。あるいは今日の社会には、科学や技術の発展という価値基準がある。それを基準にするなら、過去はやはり低位な未発達な社会として描かれる。人権という今日の価値基準にしたがって過去を書いても同じことであろうし、市民社会の発展という価値基準から過去をとらえても同じことであろう。なぜなら過去の社会は、今日的な意味での経済力や科学、技術、人権、市民社会といったものに価値をみいださずに展開していたのだから、今日の基準から過去を考察すれば、みえてくるのは「遅れた社会」である。

こうして歴史は無意識のうちにおこなわれる「悪意」によって書き直されるのである。ところが「私たち」にはこの歴史が正統な歴史のように感じられる。なぜなら「私たち」はその価値基準を共有していて、この価値基準を介して生まれた「実感」と書かれた歴史は合致するからである。

だがこの精神の展開は、現在の価値基準からはとらえられないものを、みえないものにしていく作用を伴う。たとえば自然との結びつきのなかに歴史が展開するというような歴史は、現在の価値基準からは「みえない歴史」に変わるし、生者と死者の相互的結びつきのなかに展開する歴史も同様である。キツネにだまされながら形成されてきた歴史も、過去の人々の微笑ましい物語にしかないだろう。

(内山節「日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか」から)

(注1) 私史＝個人的立場で書かれた歴史書。

(注2) 擬制＝実質は異なるものを同一とみなして、同一の効果を与えること。

1 本文中の に入る語句として最も適当なものはどれか。

ア だから イ しかし
ウ そして エ および

2 「中心」の成立⁽¹⁾ とあるが、その説明として最も適当なものはどれか。

ア 地理的中心のこと。
イ 文化的中心のこと。
ウ 精神的中心のこと。
エ 政治的中心のこと。

3 「村の歴史」はそのような歴史ではなかった とあるが、「村の歴史」とは何か、五十文字以内で説明しなさい。

4 歴史は無意識のうちにおこなわれる「悪意」によって書き直されるのである とあるが、「悪意」とは何を指すのか。

ア 都合のいいように過去を改ざんすること。
イ 国民の歴史より中央の歴史を重視すること。
ウ 現在の価値基準で過去を評価すること。
エ 不確かな情報はあえて歴史に残さないこと。

5 この文章についてある生徒が次のようにノートにまとめた。これを見て、後の(I)、(II)の問いに答えなさい。

「中央の歴史」が国民にとつての X 事実となったが、そもそも「中央の歴史」とは中央の視点から見た歴史に過ぎない。	←	さまざまに展開していた「村の歴史」のように、本来ならばただ一つの歴史というものはない。	←	「中央の歴史」は現在の価値基準で過去を描いているので「私たち」はこの歴史が正統なものだと感じる。そのため、現在の価値基準でとらえられないものは Y になってしまう。
---	---	---	---	---

これらのことを通して **Z** ということを読む人に伝えようとしている。

(I) **X**、**Y** に入る語句を、本文中から **X** は三字、**Y** は八字で抜き出しなさい。

(II) **Z** に入る内容はどれか。

- ア 現代に至るまでに経済や社会は発展してきたが、それに伴い切り捨てられてきた歴史があることを意識する必要がある
- イ 人間の歴史とは自然を破壊し支配してきた歴史でもあるので、日本の発展のための必要な犠牲である
- ウ 忘れ去られた歴史こそが日本人の精神の根幹にあった大切な部分なので、その精神を取り戻すために手を尽くすべきである
- エ 持続可能な社会の実現のためにも経済の発展にはかり目を向けないで、自然の回復や環境の維持に努めるべきである

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

「私」は図書室で同じ学年の宇野緒美に、捜している本の事を尋ねられる。そしてその帰り道に緒美の人柄や、中学時代の同級生、柳沢真琴について思いを巡らせるのだった。

私は手に図書カード(せし)を持ちながら、書棚の前を右往左往(うおうさおう)していた。そのカードは、柳沢真琴のものだ。

中学生になってから、読書好きと表向き(1)のきちょうめんな性格をかわれて、図書委員にされてしまった私は、いつとはなく彼女の図書カードに注目した。彼女の図書カードは着実に書名が書き込まれ、一学期に一枚の割で更新された。私は何の目的もないままに、おそらくは単なる感傷のためであろう、使用済みの彼女のカードを集めた。彼女のカードを見、集めたいために、私は一年から三年まで図書委員に立候補した。三年間で十二枚が集まった。一枚が二十冊分だから、二百四十冊は学校の図書室から借り出したことになる。自分で買った本もあるだろうから、彼女はたいへんな読書家だったわけだ。

べつべつの高校に離れてからは、さして親しくもなく、ほとんど口をきいたこともなかった私と彼女をつなぐ糸は、完全に切れた。

そのためだろう。

彼女をしのぶすがにと、他意なく集めていた彼女の図書カードを追っていくのを思いついた。(2)

現在高校二年の私には、読むべき本、読みたい本がたくさんあった。だから、彼女のカードを追っていくといっても、遅々として進まず、三枚目をやっと過ぎようやく四枚目にさしかかっていた。中には、すでに読んだ本もあったが、飛ばさずに忠実に読むことにしていた。口はばつたことだが、彼女の精神の軌跡(きせき)、とでもいったものを、少しなりともうかがい知ることができれば、という気持ちが働いていたためでもある。

「何の本捜しているんだい、小田桐さん」

ふり返ると、同じ二年生の宇野緒美が立っていた。

「銀の匙(ぎん)」

「銀の匙(ぎん)」か。中勘助だっけ」

「知ってるの」

私は少し驚いて尋ねた。

実は、彼女の図書カードを見るまで、私は『銀の匙』などという本のこととは、全然知らなかったのだ。きのう、家庭百科事典の文学の巻を開き、確かめてみて初めて知ったのである。

少なからず読書家を自認していた私は、軽い衝撃とともに興味を持つて緒美を見た。音楽、美術、書道の選択科目で同じ美術を取っているため、隣のクラスの人でありながら顔と名前だけは知っていたが、それ以上のことは何も知らなかった。

『銀の匙』は、学校の図書室にはなかったはずだよ。ぼくも一年のとき捜したけど、なかったから買ったんだ」

ますます意外なことである。一年のとき捜した、というのを聞き、軽い嫉妬(しつと)を覚えた。

「文庫本で出てるよ。安いし、買ったなら。それともあすでよければ、持つてこようか」

緒美はごく平素の口調でそういった。

つい一昨日、大枚千五百円を投じて単行本を買ったばかりの私は、たとえ百円といえど痛い出費だった。その本もまだ読みきっていないし、『銀の匙』はいますぐ読みたいというわけではない。いろいろ考えた末、彼の申し出を快く受けることにした。

「ありがたく貸していただくわ。B組だったわね。あす、受け取りに行きます」

そういつて歩きだそうとする私を、緒美はなおも呼び止めた。

「ほかの本借りないのか。手に古い図書カード持っているけど、『銀の匙』

をぬかして、次のを借りればいいのに」

「順を追わなくちゃだめなのよ」

私は苦笑して答えた。

自分の奇妙な読書の道筋を、指摘されたのがてれくさかった。だれの目から見ても、こんな方法は奇怪だった。私自身がよく承知していた。しかし、彼女の図書カードの順を追ってゆきたい自分の心を、私はどうすることもできないのだ。

「愛する人の図書カードを追ってゆくなんて、ずいぶんと古風で情熱的だな」

緒美は、小さな笑いを浮かべながらいった。からかつてはいるのだろうが、下卑たあてつけは感じられなかったので、心安く笑いを返すことができた。

「残念でした。これは中学時代の同級生のものよ。しかも女の子の」

「ぼくがいうのは、広い意味の愛さ。異性間のだけじゃなく」

緒美はなんのてらいもなく、さらりとそういつてから、はっとしたような表情で私を見た。

「ごめん、少しキザだったかな。昨夜、徹夜で『知と愛』を読んだせいか、思考が影響されてるなあ。自己批判、自己批判」

そういつて、てれくさそうに自分の頭をこつん、とげんこつで叩いた。優しい人なのだな、と思うと同時に、緒美の鋭さ⁵のようなものを感じ、

驚きに似た思いが起こった。

私と緒美は、その場で会釈をして別れ、私は学校を出た。

歩いてゆくうちに、緒美の言葉が心にひっかかっているのに気づいた。ぼくがいうのは、広い意味の愛さ、異性間のだけじゃなく――。

『知と愛』はすでに私も読んでいた。確かに、あれを読んだ直後だと、ああいうセリフが出てくるのもムリはない。緒美は、自分でいうように、他意なくいつたのだろう。

しかし、あの言葉は、どこかでいい当てているのかもしれない、と私

は自分の心をのぞき込みながら思った。

彼女を愛する。

それは思ってもみなかったことでありながら、反面、なるほど受け入れられることだった。

私は彼女を愛していたのかもしれない。

だがたとえ愛していたとしても、それは多分に自己愛的なものだ。なぜなら、彼女は覆いを取った私自身にほかならなかったのだから。

私は、嘘のない私自身が、現実の中でどれほど誤解され、傷つき、やがて崩壊してゆくかをこの目で見てきた。覆いをつけた私は、人びとの意見に同調し、自分の考えを笑いでごまかし、いつもグループのひとりにすぎなかった。目立たず、表向きはきちょうめんな性格と思われ、だれにでも優しく愛想がよかった。人びとの受けはよかった。私はそんな生活に、いくぶんのうしろめたさを感じながらも満足していた。あるいは、しようとしていた。

彼女、柳沢真琴が、そういう私と同じコースを歩みはじめるまで、その安全な生活の醜さに気づかなかった。

(氷室冴子「さようならアルカン」から)

(注1) 図書カード＝図書室で本を貸し出す際に使うカード。一人につき

一枚発行され、貸し出し状況などを管理するためのもの。個人の読書記録がカードに残る。

1 きちょうめんの意味として適切でないものはどれか。

A 行動や性格が規則正しくきちんとしているようす。

I ささいな物事にも感じやすく情緒が不安定なようす。

U 細やかに気がつき面倒くさがらずに立ち働くようす。

E 約束を守り仕事をしっかりこなすようす。

2 彼女の図書カードを追っていくとあるが、その理由を述べている部分を六十字以内で抜き出し、初めの五字を答えなさい。

3 ますます意外なことである とあるが、何がますます意外だったのか、本文中の語句を用いて六十字以内で書きなさい。

4 軽い嫉妬を覚えた とあるが、その内容を本文中の語句を用いて五十五字以内で書きなさい。

5 鋭さのようなもの とあるが、どうしてそのように感じたのか。その心情に合っているものはどれか。

ア 話したこともないのに、やけになれなく話しかけると感じたから。

イ 話したこともないのに緒美の言っていることはほとんど自分の感情を言い当てていると感じたから。

ウ 話したこともないのに全然そんな気がせず、すぐにも打ち解けられると感じたから。

エ 話したこともなく、お互い見えない壁を作りながら会話をしているのがわかり、とても疲れたと感じたから。

4 次の方章を読んで、1から4までの問に答えなさい。(……の左側は現代語訳である。)

ある人はいく、人は慮りなく、いふまじきことを口疾くいひ出し、人

(おもんばかりよく考えもしないで)

の短きをそしり、したることを難じ、隠すことを顕し、恥ぢがましきこ

とをただす。これらすべて、あるまじきわざなり。われはなにとなくい

ひ散らして、思ひもいれざるほどに、いはるる人、思ひつめて、いきどほり深くなりぬれば、はからざるに、恥をもあたへられ、身果つるほどの大事にも及ぶなり。笑みの中の剣は、さらでだにもおそるべきものぞかし。心得ぬことを悪しざまに難じつれば、かへりて身の不覚あらはるるものなり。

(うわべでは笑っているながら、心中では悪意に満ちていること)

おほかた、口軽き者になりたれば、「それがしに、そのことな聞かせそ。かの者にな見せそ」などいひて、人に心をおかれ、隔てらるる、

(警戒される)

くちをしかるべし。また、人のつつむことの、おのづからも聞えたる

(残念であるに違いない)

につけても、「かれ離れじ」など疑はれむ、面目なかるべし。

(あの人がからんでいる)

しかれば、かたがた人の上をつつむべし。多言留むべきなり。

(「十訓抄」から)

1 いきどほり は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 思ひもいれざるほどに の意味として最も適當なものはどれか。

ア 思い悩むまでもないことでも

イ 思い入れが大変強いことでも

ウ 気にもとめていないことでも

エ 気にしすぎてしまうことでも

3⁽²⁾

多言留むべきなり

とあるが、その理由についてまとめた次の文の

に当てはまる言葉を、本文中から九字で抜き出して答えなさい。

自分では何となく言ったつもりでも、相手は考え込んで悩み、それが激しい怒りとなれば「」になることもあるため、おしやりが過ぎるのは注意すべきであるということ。

4

次の会話文は、この文章を読んだ生徒の会話である。これを読んで(I)、(II)の問いに答えなさい。

生徒 A 「この文章は、私たちにどんなことを伝えたかったのかな。」

生徒 B 「よく考えずに言葉を発することや、相手が言われたくないことをべらべらしゃべることは、良くないことだと述べているよね。」

生徒 C 「それに、べらべらしゃべる口の軽い人だと思われてしまうと X ため、それはとても残念であり、不名誉なことであるとも述べているね。」

生徒 A 「じゃあ私たちは人と関係を築いていく上で、どのようなことに気を付けるべきなのかな。」

生徒 B 「いろいろと気を付けなければならないことはあるだろうけれど、 Y はしてはいけないことだと思うよ。」

生徒 C 「確かにそうだね。それはこの文章からも読み取ることができるよね。」

生徒 A 「私たちが古文から学べることはとても多いね。」

(I) X に入る内容を、現代語で二十字以内で書きなさい。

(II) 本文と生徒の会話を踏まえて、 Y に入る内容として最も適当なものはどれか。

- ア 隠していることを無理に暴こうとすること
- イ 相手の信用を損なうような行動をすること
- ウ わざと人を傷つけるような発言をすること
- エ 何も知らないのに人を非難したりすること

次の1、2の問いに答えなさい。

1 次の会話文は、壁新聞の作成を行っているグループの会話の一部である。これを読んで、(1)から(5)までの問いに答えなさい。

生徒A 「去年はパリ五輪が開催されたよね。パリ五輪について壁新聞を^①作成しようよ。」

生徒B 「いいね。印象に残っていることはある。」

生徒C 「私は競泳だな。特に池江選手の涙を見て、胸が熱くなったよ。」

生徒A 「諦めずに挑戦する姿は素敵だったな。」

生徒B 「かっこよかったよね。困難を乗り越えて、あのスタート台に立ったんだよね。」

生徒C 「じゃあ、競泳について取り上げよう。」

生徒B 「そういえば、国語の時間にスポーツについての俳句の学習をしたのを覚えている。」

ピストルがプールの硬き面^もにひびき

やまぐちせいし
山口誓子

生徒C 「うん、覚えてるよ。この俳句は、スタート前の張りつめた(3)と、ピストルが鳴った後の(4)様子を巧みに表現しているんだよね。」

生徒A 「思い出ただけでドキドキしてきちゃった。私も何かスポーツを始めてみようかな。」

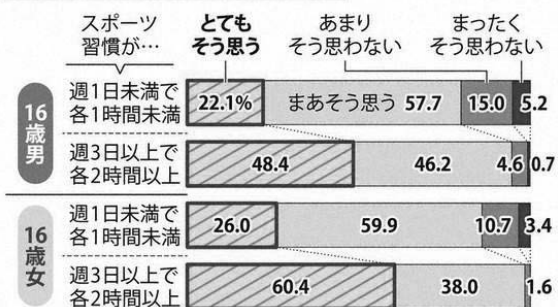
生徒B 「いいじゃない。スポーツは気分転換になるようだし、こんな調査結果(資料1)も出ているよ。」

生徒C 「さて、壁新聞の見出しはどうする。」

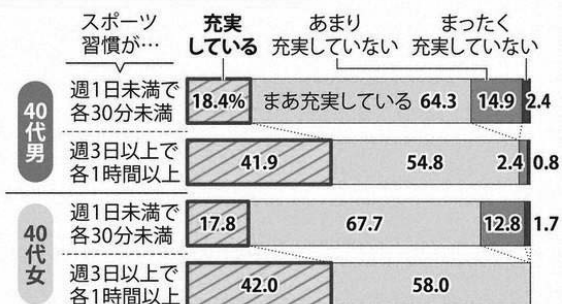
スポーツ習慣と生活意識

※スポーツ庁の体力・運動能力調査に基づく

Q なんでも最後までやりとげたいか



Q 毎日の生活が充実しているか



(毎日新聞より)

資料1

- (1) 作成と熟語の構成が同じものはどれか。
- ア 高温 イ 着席 ウ 送迎 エ 携帯
- (2) た^②と文法的に同じ意味・用法のものはどれか。
- ア 今、試験が終わった。 イ 昨日、映画を見た。
- ウ 食事の準備ができた。 エ 冷えたお茶を飲む。
- (3) ア (3) (3) (4) (4) の部分に入る語として最も適当なものはどれか。
- ア 緊張感 ③ 興奮した
- イ 恐怖感 ③ 錯乱した
- ウ 絶望感 ③ 熱気に満ちた
- エ 期待感 ④ 騒然となった

(4) 資料1から読み取れることは次のうちどれか。

ア 若いうちからスポーツを楽しんでいた人は、年を重ねても健康的な生活を送る傾向が見られる。

イ 日頃からスポーツに取り組んでいる人は、達成意欲があり、充実した生活を送る傾向が見られる。

ウ 老若男女、スポーツ習慣があってもなくても、まあまあ充実した日常生活を送る傾向が見られる。

エ 長時間の激しいスポーツは、学習の低下や健康を害するおそれがあり、マイナス効果が見られる。

(5) ⑤ 壁新聞の見出しはどうする とあるが、生徒たちの発言をもとに、壁新聞の見出しとして最も適当なものはどれか。

ア 池江選手の勇姿 イ スポーツに挑戦

ウ 俳句のすばらしさ エ 健康とスポーツ

2

保健委員会でスポーツをすることと平均余命の関係について、資料2を見ながら話し合いが行われた。あなたはなぜこのような調査結果になったと考えるか。あなたの考えを国語解答用紙(2)に二百字以上二百四十字以内で書きなさい。

なお、次の《条件》に従って書くこと。

《条件》

(i) aグループから一つ選び、bグループからも一つを選び、二つの種目を比較しなさい。また、その種目をそれぞれ解答用紙(2)に書くこと。なお、aグループはスポーツジム活動、水泳、健康体操、サイクリング、ジョギングである。bグループはサッカー、バドミントン、テニスである。

(ii) 選んだ理由を明確にすること。

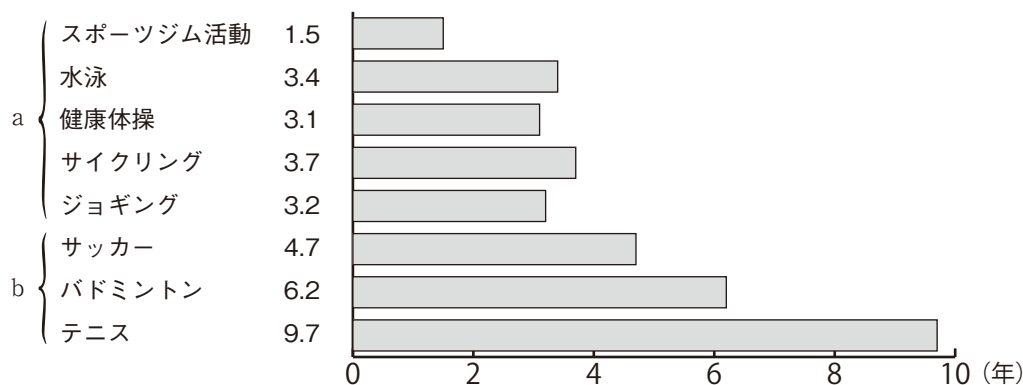


図. 運動習慣のある人のスポーツ種目ごとの平均余命の比較

運動習慣のある人の平均余命(寿命の伸びる年数)について、運動習慣のない人との差で、実施しているスポーツ種目ごとに、市民約8600人を対象に、25年間の集計をした。

図は、運動習慣のない人に比べ、運動習慣のある人の平均余命を示した。

(The Copenhagen City Heart Study, 2018より作成)

受験番号				
				番
氏 名				

得 点	
(1)	
(2)	
計	

◎「得点」の欄には受験者は書かないこと。
5 2は「国語解答用紙(2)」を用いること。

2						1				問 題					
5			4	3		2	1	2		1		答 え			
(II)	(I)		()			()	()	(4)	(1)	(4)	(1)				
()	Y	X													
												小計			
												得点			

5					4					3											
1					4		3	2	1	5	4				3				2	1	
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(II)	(I)		()	()	()											()
()	()	()	()	()	()																

5	2	種目	(aグループ)
5	2	種目	(bグループ)

氏 名	受験番号				
					番

得点	甲	乙	計

◎題名は書かなすべし。

[illegible]

240字

200字

100字